

園長だより「合わせる 合わせない」 第7号

私たちが社会生活を送っていく上で否が応でも合わせなければいけないことがあります。例えば、赤信号は「とまれ」ということですね。このルールを守ってくれないと、ドライバーは安心して車を運転することはできませんし、何よりも歩行者自身が大きな怪我をしてしまいます。社会生活をしていく上で「合わせる」ことはたくさんあります。それはマナーと呼ばれるものから、ルールやきまり、あるいは文章化された条例・法律と呼ばれるものまでたくさんあります。それに合わせないと周りの人の鬱鬱をかったり、批判されたりします。法律に合わせられない、つまり法を犯してしまうと当然、罪に問われたりします。スポーツも同じです。ルールに合わせてプレイするからこそ、みんなで楽しめるのです。バスケットボールで誰か一人がボールを持って走ったり、サッカーでキーパー以外のプレイヤーが手を使ったりするとそのスポーツは成立しなくなりますよね。

ルールや決まり、あるいはマナーを守るということは周りのみんなに自分を「合わせる」ということです。そのためにはどうしても我慢や辛抱が必要になってきます。それを自律するといいます。自分自身をコントロールするということですね。これはこの世に生を受けてから色々な経験をしていく中で徐々に身に付いていくものです。子ども達にとっては「物心がつく」というのが第一段階でしょうか。もう少し成長すると「分別がつく」という段階になりますね。そして最後はいわゆる「大人になる」ということです。ただ、最近、年齢は十分に大人であっても自分をコントロールできない、つまり「大人になりきれない大人」が増えているそうです。残念なことですね。

城東ちどり保育園の子ども達にはいずれ自律することのできる自立した「大人」に成長してほしいと思っています。そのためにも、私たちはお子さんに保育園での生活を通して「合わせる」ことを学ばせていかなければいけないと考えています。誰だって自分の思った通りにやりたいものです。でも、子ども達には自分の欲求を我慢したり辛抱したりすることの大切さを感じさせたり、考えさせたりしたいと思っています。ご家庭でもお子さんにそんな姿が見られた時はしっかり認め、ほめてあげてくださいね。そうすることでお子さんは正しい価値観を身に付けていくことになります。

もちろん「合わせない」ことも極めて重要です。それを個性と言います。城東ちどり保育園では同じ画用紙に同じ時間に絵を描いたとしても、一人一人の感性を大切にし、自由奔放に描けるような環境作りを心がけています。金子みすゞさんの詩に「私と小鳥と鈴と」があります。「みんなちがってみんないい」というフレーズがとても有名な詩なので皆さんもご存じかと思います。「あなたはあなたのままでいいんだよ」という優しいまなざしで表現された素晴らしい詩ですね。「私と小鳥と鈴と」については次号の園長だよりで少しお話ししたいと思います。

城東ちどり保育園では「合わせる」「合わせない」のどちらも大切に考え、お子さんを成長させていきたいと考えています。引き続き、ご理解ご協力をお願いいたします。